

御陵道工事、延長一、六六五米、幅員三米六乃至四米五 内陸  
道工事、延長二〇米 工費七八、六八四圓

本工事は御陵道工事中最も大なるものにして従つて竣功も昭

和十六年七月となりたり。勤勞奉仕も朝野の知名の士之に從  
事せらる。奉仕人員五、〇〇〇人

## 蘇聯の全貌と抗戦力と交通問題 (上)

### 淡 路 生

第二次世界大戦の方面と性格とを決すべき重要な鍵は獨蘇戦の  
今後展開の如何にあることは絮説するまでもない、この意味から  
蘇聯ロシアが無敵獨軍の猛攻に對して果してどの位堪へ得る力を  
示し得るか、これが世界の最大關心事である、而して蘇聯の抗戦  
力を推測するには勿論各方面の角度から様々に觀察があらうが蘇  
聯の軍事力の樞杵としての工業の現状並に資源と生産力の關係及  
び蘇聯の全般的道路鐵道其他交通運輸機關の状況更に進んで重需  
工業合理生産の分布状況殊に歐羅巴ロシアを喪失した場合の經濟  
力と抗戦力等々が主たる觀點ではなからうか、而してこの謎の國  
蘇聯邦を觀察するには先づ蘇聯の全貌を見る必要がある。

現在の露國……ソヴェート社會主義聯邦共和國は其領土に於て  
は二千百三十五萬平方料と人口一億六千五百萬を有する世界屈指  
の大國である。北は北海白海に接し、西北はバルチック海の一隅  
と歐羅巴最大の湖水ラドガ湖並にオネガ湖を抱いて南は黑海と世  
界最大の湖カスピ海とアラル海を濫へ、遠く極東はオホーツク海  
に面してゐる。陸つゞきは唯西と南のみであつてこれ等の境域の  
内部は地球上最大の廣原に貫かれて居つて、東方シベリアとの境  
には例のウラル山脈が北から南へ走つてゐるが左程峻高でないた  
め交通は極めて平易である、このシベリアには亞細亞第一のバイ  
カル湖がある、又オホーツク海にはカラフト島のあることは吾々は

克く知つてゐる、而して現在ロシアの人口はどうかと云へば千九百三十七年の蘇聯年報に依ると。

大ロシア 一、一四、六七〇千人單位

小ロシア 三二、九〇六

白ロシア 五、五二六

トランス・カウカシア 七、一一〇

ウズベツク 一、三六二

トルコメツ 五、〇四二

タヂーク 一、四二八

となつてゐる、即ち大體に於て一億六千餘萬人である、而してロシアの氣候は大平原では山脈が稀れなると高度が少ないのみならず、唯一つのウラル山脈が歐亞の中央にあるが、これとて山脈といふよりは寧ろ丘陵續きといつた方が適當な位で、殆んど正確に北から南へ走つて居り赤道に對して垂直の角度を保つてゐる結果として北の寒風が南の暖風を支へて氣候の緩和を計ることは全然不可能である、故に北極の寒風も中央亞細亞の熱氣も悉に全國に行き渡つて冬寒夏熱即ち純然たる大陸的氣候の支配するところとなつてゐる、

嘗てアレキサンドル三世は……ロシアは世界の第六部である……

……と云つて五大洲の外に數へんとしたが全くロシア夫れ自身は老大と無變化とを特徴とするのである、この状態は西歐にも東亞にも全く類比の見ないところである。

も全く類比の見ないところである。

この雄大なロシアを風土、湿度、植物、等から仔細に觀察すると、その地域を北部の森林帯と南部の平原帯とに二大別することになる。そうしてこの森林帯は北部及中央部の全土に互る結果として其の面積は平原帯よりも廣く、北極部を除いては凡そ北緯六十五六度の線から發して漸次南下して大體北緯五十六度即ちモスコウの邊まで延びて居り又所に依つては這般獨逸軍に占領された約北緯五十一度のキエフのあたりまで達してゐる、この森林地帯に對するのは南部の平原帯である、西方ダニュープ河から東はウラル山脈に達するまでの平坦な廣地を包含してゐるが、全體を通じて百米以上に達する高地は皆無で山も谷も樹もない、只だ見渡す限り際涯なき大洋の靄を呈して居る、雨量は甚だ少く寒暑の差は極端であつて黒海、アゾフ海、裏海、コウカサス山麓等に於てすら攝氏四十度から零下三十度にまで上下してウラル海附近の如きは實に其差八九十度に及ぶと云はれてゐる、この外に草原帯と總稱せられるものがあるこれは黒土帯と南方黒海アゾフ海並に裏海との間に介在する一面の雜草地帯のことであるが、西はドニエスデル、ブクドニエフル下流から東はドン、ヴォルガ、ウラルの諸河下流域に互る窪地を含んでゐて樹木なく水なき草海であつて、夏は烈日のために雜草忽ち枯死すると思へば冬は忽ち雪野と化す有様であるから精々牧畜位利用する外はないところである、然し



ことになつたのであるが、それにしても各地の住民が常にこれを利用して接觸を保つてゐることは現在と雖も大した變りはないやうである。

翻つて今度はロシア人の性格方面に付いて、觀察して見るとかつてクルチエフスキが……地勢の相違から三つの特徴を現はしてゐる……と、主張したのは誠に至當であるやうに思はれるのである、平原地帯は茫漠たる曠野であつて一眸千里何等眼を遮るものはない、そこからロシア史上最初に生れ出たものはキリスト教を奉ずる前衛郷土であつた、これが常に異教徒の遊牧民が歐羅巴に侵入することを防止する勇敢なる前衛土であつた、次いで生れたものはやはり先驅的な騎士である放浪のコサツク兵であつた、彼等は馬上を以て住家となし常に勞力と武力とを提供して身命を惜まなかつた、そうしてそれが兵士であり間諜であり又或る時は商人であり盜賊でもあつた。これ等の氣風が南方草原地帯の特色であつた、北方森林帯は古來からロシア史上は時に現はれて來るところであるが、彼等は森林荒野で働くか又は農耕を営まふとすれば森林を燒き地を開墾して數年に互る苦役と忍耐以て事に當つて漸く其の目的を達するの右様であり又森林地域には常に危険が陰れてゐたから周到の注意を拂はなかつたなら、その生活は脅かされて來た結果この地帯の住民には更に強き忍耐を教へたのである。更に全國的水路はロシア人に連帶心と友愛心とを植付たので

あるが、ロシア人は絶へず移住して新たな世界を開拓して來た歴史を持つてゐるがこれはこの心がなくては決して成功しなかつたのである、元來ロシア人は好戰國民か否かと云ふことは屢ば論據の岐れるところであるが露人の武力を用ゐるのは東方蠻族の侵入するに備へるためであつて生粹の好戰國民ではないと云ふものもある。これは觀察點にも依るうが、先づ大體に於て此の民族は生れながらにして好戰であるとは云ひ得ないと思ふのである、そうしてロシア人は大體に於てスラブ族であるがこのスラブはインド、ユーロピアン系の民族であつて其大部分をなすものは、東スラブと呼ばれるゝ分派である、大ロシア人小ロシア人、並に白ロシア人が之に屬してゐる、殘る西スラヴ及び南スラブに屬するものはポーランド人チエツコ人スロヴァキア人並にセルボ、クロアチエ人等である、而してかやうに多くの民族が各々獨立せずして統一したのは種々の原因もあらうが、畢竟其の地勢が然らしめたのに外ないと見るのは至當である。

これがロシアの全豹であるが……かやうに露國は廣大無邊の領土を有してゐるから世界列國の内でも所謂持てる國である。今最近ロシアの經濟状態を見ると驚異的の躍進をなしてゐる、半封建的な農業國ロシアは現在では近代的大工業國となつてゐる、これを知るためには先づかの第一次五ヶ年計畫の出發に當つて、赤軍の大御所と云はれるウオロシローフ元帥が述べたことを想起す、

るのである、即ち彼は。

國民經濟五ヶ年計畫は凡ゆる武装攻撃に對する反撃と勝利を保證すべき蘇聯の國防力を組織する必要性を以て、出發點とせねばならぬ、従つて工業建設の具體的計畫に際しては充分なる軍事の考慮を加へる必要がある、原料資源の自給自足の確立が必要である。これ等に伴ふて蘇聯の交通運輸状態を改善すると共に茲に發達せしめ殊に道路の問題は此線に副ふやうに將來建設を進めなければならぬ武装勢力をして歐洲第一流の水準にまで高めることを目標に置かねばならぬ。

大體以上を目標に置いて進んだものである、而してこの國防工業の發展振りを理解するために蘇聯の工業部門の世界的地位を見ると、第二次五ヶ年計畫の最終年度である千九百卅七年度では、

工業生産五位	千九百二十三年	千九百三十七年	蘇聯以上國
石炭生産六位	四位	米國、獨逸、英國	米國
石油生産三位	二位	米國	米國
電力生産十位	十一位	米國	米國
銑鐵生産六位	二位	米國	米國
銅 生産九位	三位	米國、智利	米國
一般機械製造四位	二位	米國	米國
農業機械製造四位	二位	米國	米國

機關車製作數四位	一位	蘇聯
自動車製作數十二位	五位	米國、カナダ、佛蘭、英國
貨物自動車製作數十二位	二位	米國
トラクター四位	二位	米國
過熱酸生産十八位	二位	米國
セメント生産八位	二位	米國

斯様に蘇聯の工業力は千九百三十七年に於て既に歐羅巴の第一流の水準に達してゐる、これは外から觀察すれば全く驚くべき生産部門の發達であつた。

本稿を書いた今日即ち九月十四日は丁度今から百三十年以前の千八百十二年の九月の今日蓋世の英雄ボナレオンは佛蘭西の健兒六十萬を掲げてミンクスからモスカウ街道を轟進して露都に入城した日である……嗚呼獨軍は果して第二ナポレオンたるか否乎。

「九月十四日以下次號」

